

【有村の竹島問題への取り組み・想いが島根県の新聞に掲載されました】



# 島竹論各

—「2・22」を前に—

（37）は、当時のやりとりを振り返り、立ちを隠さなかった。

「前日、質問通告した際、外務省や内閣府の方に来て、どちらも答えられないと言った。政府には、竹島のことを受け止めてくれる部署がない。領土問題は国が担うべきもの。島根県の人たちの善意のみに委ねていていはずがない」

請願で超党派の島根県議らが求めた一つが、竹島問題を所管する国の組

竹島（韓国名・独島）の領有権の早期確立を求

める請願が衆参両院で採択され、一年四カ月が過ぎた

昨年十月の参院内閣委員会。進展の見えない政府対応を問いたした自民党の有村治子議員

## 政府対応

織の設置。同じ領土問題でも、北方領土は内閣府に開く返還要求全国大会には首相も出席。それに

七日の「北方領土の日」島民がいるかどうかの違いによるのではないか。

行政改革が求められる

## 消極的態度に困惑と憤り

に記念日を迎える竹島への政府対応はつれない。

「推測だが、対応の違いは、実際に住んでいた島民がいるかどうかの違いによるのではないか。」

「光が見えれば努力し、出口が見えない不安や不満は募るばかり。少しずつ物事を進め、その状況を伝える必要がある。そのために、政府に対し、関係者の熱意を感じ、繰り返す訴え続けること、かみこみこみ」

参議院議員 有村 治子氏



ありむら・はるこ 1970年、石川県生まれ。国際基督教大卒。米国SIT大学院修士課程を修了後、日本マクドナルドに入社。社会人大学院生として青山学院大学院博士課程に在籍中の2001年に、参院選比例代表に自民党から出馬し、初当選。07年に再選を果たした。

領土問題に取り組む発端は、議員になったころ知った、ドイツの法哲学者・イエーリングの「領土の一部を失って黙っている国民は領土のすべてを失う危険を負う」との言葉だ。

二〇〇五年三月の参院文教科学委員会では、当時の中山成彬文部科学相に質問し、領有問題を抱える竹島と沖繩・尖閣諸島について、学習指導要領に日本の領土として明記すべきだ、とする見解を引き出した。

「私は石川県生まれで滋賀県育ち。北方領土問題を抱える北海道や島根県に縁がない者が本気で領土問題に取り組むからこそ意義がある。領土は独立国家の根幹を成すもの。政府の姿勢は消極的で困惑と憤りを感じる。これからも真剣に誠実に、かみこみこみ」

山陰ワイド

Sanin Sougou

総合

昨年九月、竹島を所管する島根県隠岐の島町を訪れ、竹島問題に取り組み関係者の熱意を感じ、繰り返す訴え続けること、かみこみこみ」

参議院議員 比例代表(全国)区

ありむら治子

www.arimura.tv